

課題文型小論文 (p.78) ※「動物型ロボット」を軸に書く場合

筆者の主張に対する自分の考えを述べ、論を展開している。

現代の科学技術の発達と筆者の主張を関連づけて、冒頭から読み手を引きつける表現で書いている。

ここ数年の人工知能の発達には、目を見張るものがある。課題文で筆者も述べているように、動物型ロボットの進化もその一つである。いまやロボットは人間の指示通りに動くだけでなく、人間の問いかけに答え、気遣いや提案までしてくれる存在なのだ。

筆者は「ヒューマノイドの登場により、人間がロボット化、機械化していく」と主張しており、この状況に懐疑的な印象をもっているように見受けられるが、私は「今の社会」におけるロボットの利点も多くあると考える。例えば、近年増加傾向にあるうつ病や認知症患者の症状緩和に、動物型ロボットが一定の効果をあげていると、最近の新聞記事で目にした。動物型ロボットであれば、動物アレルギーや毛などによるぜんそくをもつ患者でも接することが可能なため、今後ますますの活用が期待されていくだろう。また、集合住宅のためペットが飼えない家庭や、多忙のため散歩や予防接種などの世話が難しい人たち、子どもをもたない夫婦にとっても、動物型ロボットは一定のニーズがあるという。

以上のことから、私は今の社会において一緒に暮らす存在としてふさわしいのは、動物型ロボットだと考える。人間は太古から、狩猟のパートナーやペットとして犬や猫などとともに生きてきた。今後は、AIを搭載した動物型ロボットが、私たちのライフスタイルに合った新しいパートナーとして、より一層普及していくだろう。

800

600

400

200

最後の段落で自分の考えを示すことで(尾括型)、文章全体をまとめあげている。

新聞記事で知った現代社会の実情を述べ、動物型ロボットの利点を説明している。